

# 三重の 生きもの大より

## 第 2 3 号



和名: ススキ  
学名: *Miscanthus sinensis*

ススキはイネ科の植物で、日本各地の河川敷や空き地、道端で見ることができます。成長すると100cm～200cmになり、根元から多数集まって大きな株になります。ほうきのように見える部分は花穂とよばれ、7月～10月に小さな花をたくさんつけます。よく似たものに「オギ」がありますが、成長しても株にならないことや、湿地に生えるなどの点が違ってきます。

万葉集では「尾花」や「茅<sup>かや</sup>」と呼ばれ、たくさんの歌に詠まれています。かつては茅葺<sup>かやぶ</sup>き屋根の材料に使われていましたが、現在はほとんど見かけることはありません。ススキという名前は「すくすくたつ木」という意味から来ていると言われ、秋空に映える植物の一つです。

M.Y.